

タンク型式の変更 : 大容量タンク

- 大容量タンクと標準タンクの面積あたりの容量効率は大差なく、保管容量は増えない
 - 大容量タンク（10万m³級）を採用した場合の懸念事項

設置工事期間	基礎工事及び原子力特有の検査を含め、 1基あたりの設置に3年、設置後の漏えい検査等に1年 を要する
敷地利用効率	設置面積あたりの貯留容量は、 現在採用している標準的なタンク（1,350m³級）と大差ない （設置作業に大型クレーンを使用するため、設置間隔を大きくとる必要がある）
漏えい等リスク	破損した場合、1基あたりの 漏えい量が膨大 10万m ³ 級の大容量タンクは浮屋根式構造となるため雨水混入の可能性があり、その場合はALPS処理水が増えることから採用は不可

